

## 成績概要書 (2010年1月作成)

研究課題：ブルーベリーの品種特性(113110)

担当部署：中央農試 作物研究部 果樹科

協力分担：なし

予算区分：道費 (一般)

研究期間：1999～2009年度 (平成11～21年度)

### 1. 目的

ブルーベリーは果実の機能性が注目され道内でも栽培が増加しており 1995 年には 10ha だった栽培面積は 2007 年には 24ha と増加している。ブルーベリーの種苗は海外育成された品種や府県で育成された品種など、多くの品種が種苗業者から容易に購入することができる。しかし、収穫期や耐寒性、果実品質など本道における特性についての情報が少なく、品種を選択するための本道における品種特性情報が求められている。そのため、本試験では新しく導入したブルーベリー品種等について、耐寒性・収量・収穫期・果実品質などの特性を明らかにし、品種選択の際の資料とすることを目的とした。

### 2. 方法

- 1) 試験場所：中央農試 (長沼町)
- 2) 供試品種：19 品種
- 3) 参考品種：「ウエイマウス」「ジューン」「ランコカス」「ハーバート」(1974 年北海道優良品種)
- 4) 供試樹数：1～5 樹/品種
- 5) 栽植距離：4.0m × 1.5m (167 樹/10a)
- 6) 調査項目：生育相、樹体生育、収量、果実品質、耐寒性等

### 3. 成果の概要

1) ブルーベリー 19 品種について各種特性から総合評価を行い、4 品種を有望、9 品種をやや有望とした。

2) 有望とした品種の概評は以下の通りである。

「プル」：樹体生育は中で、樹姿は中間。凍害の発生は少ない。7 月下旬から収穫となる品種で、成木期の 1 樹収量は 1.3kg 程度。果実重は平均で 2g を超え揃いは良い。糖度は高く食味はやや良く、日持ち性はやや良い。

「レカ」：樹体生育は良く、樹姿はやや直立で凍害の発生は中程度。7 月下旬から収穫となる品種で、成木期の 1 樹収量は 3kg を超え多収。果実重は平均で 2g を超え揃いは良い。糖度は中で酸はやや多く、食味は中、日持ち性は良い。

「ノースランド」：樹体生育は良く、樹姿は中間。凍害の発生は中程度。7 月下旬から収穫となる品種で、成木樹の 1 樹収量は 2.7kg 程度と多収。果実重は平均で 1.4g とやや小さいが揃いは良い。糖度は中程度だが酸味が少なく食味はやや良く、日持ち性はやや良い。

「パークレイ」：樹体生育は良く、樹姿は中間。凍害の発生はやや少ない。8 月上旬から収穫となる品種で、成木樹の 1 樹収量は 1.7kg 程度とやや多収。果実重は平均で 2.4 g と大きく揃いは良い。糖度は中程度だが酸味が少なく食味はやや良く、日持ち性はやや良い。

3) 果実品質、日持ち性等に優点の認められる「シェラ」「デューク」「トロ」「ヌイ」「ハリソン」「スパータン」「ダロー」「ブルークロップ」「ブルーヘブン」をやや有望とした。

4) 「ブリギッタ」「ブルータ」は耐寒性や収量性など、いくつかの欠点があり、本道での栽培には適さないと評価した。

表1 供試品種の概要

品種	凍害発生程度 (多発年)	樹冠容積 (m <sup>3</sup> )	収穫期(月日)		年平均収量 (kg/樹)	果実重(g)		摘い	果粉量	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	糖酸比	食味	香気 の量	日持ち 日数
			始	終		平均	最大								
ブルータ	0.6	0.26	7.20	8.10	0.7	1.7	2.9	2.4	2.6	12.3	0.54	22.6	3.1	2.1	4.8
ウエイマウス(参考)	0.4	0.68	7.21	8.12	1.5	1.7	2.7	3.0	2.6	11.0	0.79	14.0	2.7	1.1	4.3
ジュン(参考)	1.0	1.79	7.21	8.16	2.3	1.5	2.3	2.4	2.0	12.9	0.36	35.6	3.7	2.5	4.3
デューク	1.5	0.81	7.23	8.16	1.6	2.4	3.6	2.9	3.0	11.6	0.64	18.1	2.9	1.3	6.8
スパータン	1.1	0.46	7.25	8.18	1.4	2.8	4.4	2.8	2.8	12.3	0.54	22.8	3.1	1.3	5.2
ハリソン	1.0	0.80	7.26	8.17	1.3	2.4	4.0	2.8	3.0	12.5	0.62	20.1	3.1	1.4	5.6
レカ	1.4	2.47	7.26	8.26	3.5	2.2	3.3	3.0	2.0	12.0	0.87	13.8	2.9	1.1	6.1
ノースラント	1.3	1.68	7.26	8.24	2.7	1.4	2.6	3.0	3.0	12.4	0.48	25.9	3.1	1.2	5.0
ノースブルー	0.6	0.39	7.27	8.18	1.1	2.2	3.7	2.2	2.1	11.2	0.79	14.1	2.7	1.3	5.0
パトリオット	0.7	0.44	7.27	8.21	0.9	2.1	3.6	2.3	2.8	12.3	0.66	18.6	3.2	1.5	5.0
ブル	0.4	0.92	7.27	8.19	1.3	2.1	3.4	2.8	2.5	13.6	0.81	16.8	3.4	1.6	5.6
ヌイ	1.1	0.52	7.28	8.21	1.1	2.4	4.2	2.8	2.8	12.1	0.97	12.5	2.6	1.2	5.8
ブルーヘブン	1.6	0.90	7.29	8.23	1.8	2.4	3.9	2.9	3.0	11.9	0.52	22.9	3.0	1.4	6.9
ブルーチップ	1.4	0.40	7.31	8.18	0.6	2.3	3.5	2.4	3.0	11.8	0.64	18.6	2.9	1.1	5.0
ランコカス(参考)	1.2	0.80	8.01	8.24	1.0	1.1	1.8	3.0	2.1	13.8	0.55	24.9	3.5	1.4	4.1
トロ	0.9	0.82	8.01	8.23	1.2	2.6	4.2	3.0	2.9	11.0	0.61	18.0	2.9	1.3	5.1
シェラ	1.1	0.91	8.02	8.21	1.0	2.1	3.3	2.8	3.0	12.8	0.85	15.2	3.1	1.4	6.8
ブルークロップ	1.8	1.15	8.02	8.27	1.2	2.2	3.6	3.0	3.0	12.1	0.78	15.6	3.1	1.3	5.5
ブルーレイ	0.7	0.40	8.04	8.24	0.5	1.9	3.3	3.0	2.8	12.2	0.60	20.3	2.6	1.5	4.4
バークレイ	0.7	1.42	8.07	8.31	1.7	2.4	4.0	3.0	3.0	12.1	0.47	25.7	3.0	1.3	5.3
ダロー	1.1	1.15	8.07	9.01	0.9	2.7	4.3	2.9	2.6	12.5	1.29	9.7	2.7	1.2	5.4
ハーバート(参考)	1.7	0.49	8.08	8.31	0.6	2.0	3.2	2.9	2.6	12.4	0.88	14.1	2.9	1.3	4.9
ブリキッタ	2.3	0.86	8.11	8.27	0.2	1.9	3.2	2.6	2.9	12.8	1.19	10.7	2.7	1.3	5.7

凍害発生程度(多発年): 2003, 2004, 2005, 2008年、樹冠容積:2009年、それ以外の項目:2003~2009年の平均  
 摘い:不良(1)~良(3)  
 果粉量、香気:少(1)~多(3) 食味:不良(1)~良(5) 日持ち日数:室温下における可食期間

表2 総括表

品種	耐寒性	樹体生育	収量性	果実の 大きさ	食味	日持ち性	総合評価
ブルータ	○	×	△	△	□	□	×
ウエイマウス(参考)	◎	△	○	□	□	□	◎
ジュン(参考)	□	◎	◎	△	○	□	◎
デューク	△	□	○	○	□	◎	◎
スパータン	□	△	□	◎	□	◎	◎
ハリソン	□	□	□	○	□	◎	◎
レカ	□	◎	◎	○	□	◎	◎
ノースラント	□	◎	◎	△	□	◎	◎
ノースブルー	◎	×	□	□	□	◎	△
パトリオット	◎	△	△	□	□	◎	△
ブル	◎	□	□	○	○	◎	◎
ヌイ	□	△	□	○	□	◎	◎
ブルーヘブン	△	□	○	○	□	◎	◎
ブルーチップ	□	△	△	□	□	◎	△
ランコカス(参考)	□	□	□	△	○	□	△
トロ	○	□	△	◎	□	◎	◎
シェラ	□	□	□	○	□	◎	◎
ブルークロップ	△	○	□	○	□	◎	◎
ブルーレイ	◎	△	△	□	□	◎	△
バークレイ	◎	○	○	○	□	◎	◎
ダロー	□	□	△	◎	□	◎	◎
ハーバート(参考)	△	△	△	◎	□	□	△
ブリキッタ	×	□	×	□	□	○	×

各項目の評価: ◎:優れる ○:やや優れる □:中 △:やや劣る ×:劣る  
 耐寒性:凍害発生程度の多少、樹体生育:樹冠容積の大小(大:◎~小:×)、収量性:平均収量の多少、  
 果実の大きさ:平均果実重の大小(摘いが“中”以下の場合、1ランク下げ)、食味:食味の良否、  
 日持ち性:室温下での日持ち日数の長短  
 総合評価:各項目の評価を総合的に勘案して  
 ◎:有望 ○:やや有望 △:有用な特性を有するが、欠点がある ×:本道での栽培には適さない

4. 成果の活用面と留意点

- 1) ブルーベリーの品種導入において活用する。
- 2) 道東などの少雪地帯では耐寒性を重視する。

5. 残された問題とその対応

耐寒性が強く、大果、良食味の新品種の選定。